



株式会社インバックス

Address: 〒339-0056 埼玉県さいたま市岩槻区加倉23-1

Tel:048-749-2035, Fax:048-749-2036

Email : info@invax.co.jp

URL : <https://invax.co.jp>



ソイルテクノロジー株式会社

Address: 〒339-0056 埼玉県さいたま市岩槻区加倉23-1

Tel:048-637-3290, Fax:048-637-3291

Email : info@soiltech.jp

URL : <https://soiltech.jp>



株式会社北海道土砂資源化研究所

Address: 〒066-0077 北海道千歳市上長都1057-10

Tel:0123-29-5519, Fax:0123-29-5589

Email : info@h-doshashigen.jp

URL : <https://h-doshashigen.jp>

invax group

会社案内



invax
group

Invax

Soil Technology

Hokkaido
Soil Recycling Institute



CONTENTS

P.1-2

新しい資源の創造
土を資源にする技術

P.3-4

ソイルセメント技術
実績

P.5-6

事業内容
土砂活用ソリューション事業
土木設計コンサルティング事業
品質管理事業
配合試験事業
研究開発

P.7-8

会社情報1
会社概要
拠点

P.9-10

会社情報2
組織図
沿革

新しい資源の創造

近年、地球温暖化の影響から毎年のように史上最大規模の台風や豪雨などによる災害が世界的に報道されています。さらに日本は、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震等、地震多発国でもあります。

国にとって、最大の優先事項は、国民の生命と財産を守ることです。そのためには、財政的に厳しい時期であっても、何とかして国民を守るための施策を講じなければなりません。政府は災害から国民を守るために、防災基本計画や国土強靱化計画を立て、取り組んでいます。

一方、土木技術やその資源に目を向けると、コンクリートに代表されるように、ほとんど土木資源の開発は出し尽くされた様に思われがちですが本当でしょうか。

過去の歴史に学べば、様々な厳しい社会背景の時期にこそ、その時代の問題を解消する様な革新的な技術や資源が開発されてきています。

当社は、日本で唯一、工事による掘削等で発生した土砂を資源として利活用する技術を有している会社です。

そして、現在、日本全国のさまざまなシーンで私達の技術が適用されています。

代表取締役社長 **秋山祥克**

小さな町の小さな試験場で、コツコツとやっている試験作業。
実は現在日本で施工されている、殆どのソイルセメント配合は、私達がひとつひとつ手がけたものです。



Soil cement technology

ソイルセメント技術

どこにでもある土をコンクリートの様に固める技術を開発しています

砂防ソイルセメント市場の拡大に貢献する当社の技術

これまで、砂防ソイルセメント※1は、そのコンセプトである、「建設残土の撤廃、建設工事による周辺環境への影響の抑制、建設コスト削減、工期短縮」が図られる工法として、高く評価されてきました。しかしながら、活用する土砂は工事現場ごとにその性状が大きく異なるため、これまで実工事で現地土砂を活用したところ、強度が得られない等といった問題が生じておりました。

つまり、実際に施工するまで、現地の土砂が活用できるかどうか分からない。設計段階で、土砂の活用の可否が難しいとされ、工法普及の大きな足かせとなっていました。

当社はこのような問題を解消するため、いち早く日本全国の土砂を対象に配合技術の研究に取り組み、配合試験手法の確立、各種試験マニュアルの公開、ソイルセメント品質の把握に関する技術的研究等、様々な研究成果をあげてきました。さらに、現在では、主だった砂防堰堤のソイルセメント配合のほとんどは当社の技術が活かされており、そして近年においては、地道ながら一つ一つの積み重ねてきた実績が評価され、砂防ソイルセメント工法そのものの信頼性が評価されてきております。

当社は、これまでストックされた日本各地の試験データは7000ケースを優に超え、現時点で、国内最大のソイルセメントデータを保有する会社です。

進化し続ける当社の技術～日本国内に止まらず、世界へ向けて～

砂防ソイルセメントは、前述のとおりそのメリットは、「建設残土の撤廃、建設工事による周辺環境への影響の抑制、建設コスト削減、工期短縮」と、およそ土木技術者にとっては夢の様な工法であり、この技術が日本全国、あるいは世界のどの土砂でも活用できるようになれば、まさに夢の工法に近づくのではないのでしょうか。

当社は、その夢の実現のために、これまでソイルセメントへの活用は不可能であるとされてきた、沖縄の赤土砂や、阿蘇の黒ボク等のソイルセメントへの活用の研究に取り組み、その技術は熊本阿蘇の豪雨災害事業で全面的に採用されることになりました。

こうして日本国内では、新しい土木資源として、現地の土砂をそのまま活用しようとする砂防ソイルセメント工法の採用実績が増加しております。しかし、当社の工法技術は、国内だけにとどまらず、セメントやコンクリート骨材等の土木資源に乏しい東南アジアやアフリカ諸国においてこそ、この技術のメリットが活かされることとなります。

私達は近い将来、日本の新技術としてこの工法が世界で採用されることも夢ではないと考えています。

※1砂防ソイルセメント：土石流災害等を防止するために建設される、砂防ダムの建設工法として、現地土砂を活用する工法の総称。

Achievement

実績

H28 広域土砂災害対応② 可部沢下砂防堰堤

H18 地震災害急速施工例 油夫川砂防堰堤

H24 美瑛川第1号導流堤 (L=340m)

H26 広域土砂災害対応① 坂梨砂防堰堤

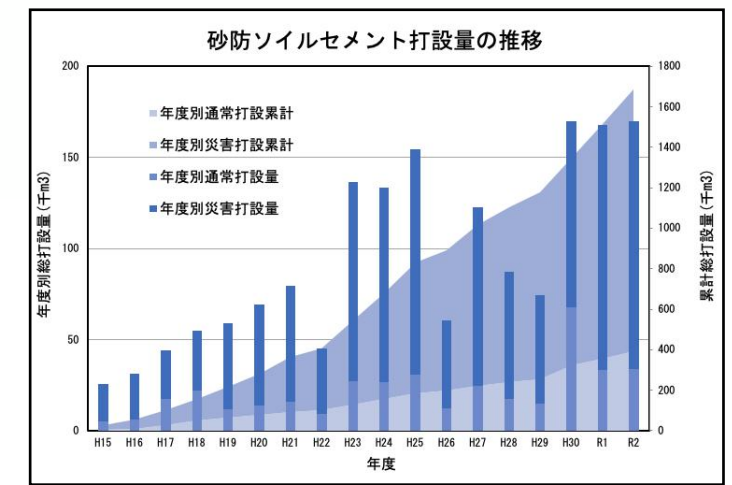
H16 緩衝工事例 集川1号砂防堰堤

H18 護岸導流堤事例 ながこべ谷川導流堤 (L=115m)

H16 日本最古SBウォール堰堤 三宅島しらみ沢遊砂池堰堤

土砂採取、配合試験、強度管理状況

赤土



Business lineup

事業内容

平成12年（2000年）にソイルセメントの研究および土木工法開発を主たる事業として設立以来、様々な研究をふまえ、新たな事業を展開してきました。



現地土砂を採取

土砂、水、セメント・
固化材を混合し、
砂防ソイルセメントを製造

砂防
層状
ソイルセメントを
に転圧して締固める

水和反応（セメントと水の化学反応）
によって、砂防ソイルセメントが固化する



供試体の養生

土砂活用ソリューション事業

現場の土砂を活用したソイルセメント技術を様々な分野で活用するためのコンサルティング

土木設計コンサルティング事業

砂防関係事業を主体とした調査から設計までの一般土木設計コンサルタント
ソイルセメント設計関連コンサルタント

品質管理事業

現地土砂を採取して分析を行い、当社が今まで蓄積してきたビッグデータと解析ノウハウにより、100%固めるために最適な配合と資材・工法を含めたトータルコンサルティング
施工現場で、ご依頼頂いた品質を確実に確保するための品質管理項目のご提案・実施

配合試験事業

土砂を砂防ソイルセメント工法に活用するため、適正強度を出すソイルセメントの配合割合を導き出す配合試験および適応性評価試験対応

研究開発

ソイルセメント技術を活用して、あらゆるニーズにお応えできるよう下記のようなテーマに取り組んでいます。
土砂資源化技術の研究開発、寒冷地の土砂資源活用のための研究開発、製鋼スラグの活用研究、フライアッシュの活用研究、ソイルセメント施工機械の開発、セメント系固化材の研究、配合試験および試験技術の研究開発、ソイルセメント構造物の研究開発

Company Profile

会社概要

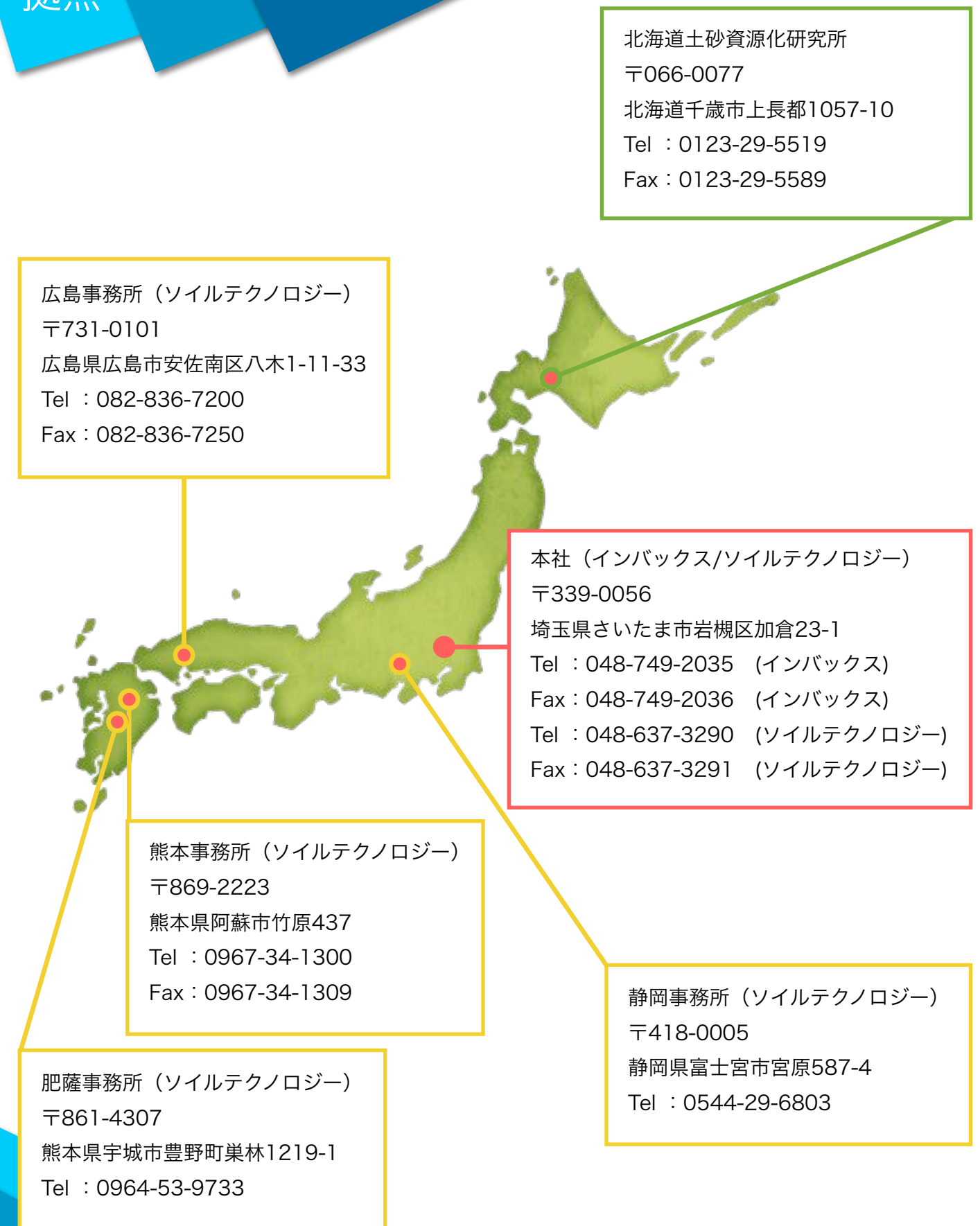
会社名	株式会社インボックス
所在地	本社：〒339-0056 埼玉県さいたま市岩槻区加倉23-1
設立	2000年8月1日
資本金	6,385万円
代表者	代表取締役社長 秋山祥克
事業内容	土砂活用ソリューション事業、土木設計コンサルティング事業
協力会社、 主な取引先	日鉄建材（株）、共和コンクリート工業（株）、日立建機日本（株）、日本製鉄（株）、太平洋セメント（株）、（一財）砂防フロンティア整備推進機構、全国建設会社、土木設計コンサルタント他

会社名	ソイルテクノロジー株式会社
所在地	本社：〒339-0056 埼玉県さいたま市岩槻区加倉23-1
設立	2017年2月1日
資本金	800万円
代表者	代表取締役 秋山祥克
事業内容	配合試験事業、品質管理事業

会社名	株式会社北海道土砂資源化研究所
所在地	本社：〒066-0077 北海道千歳市上長都1057-10
設立	2020年9月1日
資本金	600万円
代表者	代表取締役会長 秋山祥克 / 代表取締役所長 宮木康二
事業内容	寒冷地の土砂資源活用のための研究開発事業

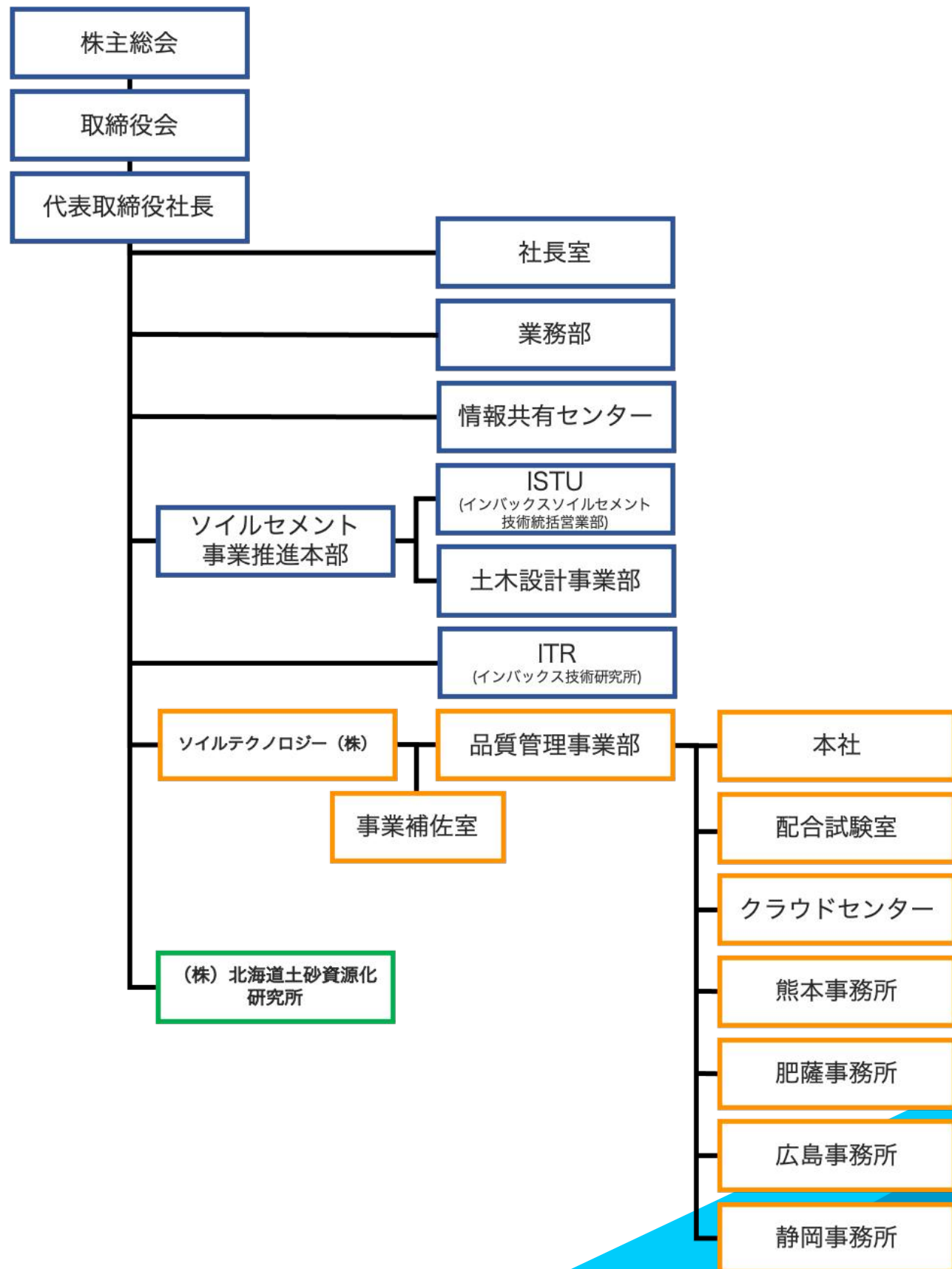
Office

拠点



Organization chart

組織図



History

沿革

2000年 8月	砂防ソイルセメント事業の推進を目的として埼玉県川越市に株式会社インボックスを秋山祥克が設立
2001年 7月	日鉄建材(株)、共和コンクリート工業(株)と3社共同でソイルセメントを活用した砂防堰堤構築工法である『SBウォール工法』を国内で初めて開発・商品化 資本金3100万円に増資
2002年 9月	資本金4200万円に増資
2003年 3月	LUC-SBウォール工法研究会(現SBウォール工法研究会)を設立
2005年 2月	財団法人砂防・地すべり技術センターにおいて、INSEM-SBウォール工法の技術審査証明を取得
2008年10月	本社を埼玉県川越市脇田本町15-20モナーク川越202号に移転
2009年 7月	国内初のINSEM専用プラント(自動INSEM材製造機械)を日立建機日本(株)と共同開発
2010年 7月	Insem-Piant Twin Hopper(改良版INSEM専用プラント機械)を日立建機日本(株)と共同開発
2010年10月	配合試験研究所を埼玉県坂戸市に設置
2010年12月	ソイルセメントの簡便な配合試験手法、INSEM材適性判断試験技術の公開
2011年10月	本社を埼玉県川越市脇田本町11-2MTビル8Fに移転
2012年 3月	高性能圧縮試験機を配合試験室に導入
2012年 4月	日鉄建材(株)からの依頼により、製鉄所の鉄鋼スラグの活用研究に着手 一般財団法人砂防・地すべり技術センター、京都大学と共同で製鋼スラグのソイルセメントへの活用に関する研究に着手
2013年 6月	本社を埼玉県さいたま市見沼区春岡2-26-10に移転 坂戸市配合試験室を閉鎖し、配合試験室を本社に統合し、配合試験事業の本格設備を整備
2013年10月	ソイルセメント品質管理事業を開始 熊本県阿蘇市において、日本初となるソイルセメント集中プラント方式を導入 熊本県阿蘇市竹原437に熊本事務所を開設 京都府立大学とフライアッシュのソイルセメントへの活用に関する研究に着手
2014年 6月	品質管理クラウドシステム開発
2015年 6月	INSEM工法品質管理クラウドシステム商品化
2015年10月	広島県広島市安佐南区八木1-11-33に広島事務所を開設
2017年 2月	インボックスの子会社として、ソイルテクノロジー株式会社を設立 配合試験事業、品質管理事業を確立するためインボックスから切り離し移管
2019年 7月	北海道千歳市上長都1057-12に北海道事務所を開設
2019年12月	静岡県富士宮市宮原587-4に静岡事務所を開設
2020年 9月	インボックスの子会社として、株式会社北海道土砂資源化研究所を 北海道千歳市上長都1057-10に設立 寒冷地の土砂資源の活用を可能とするための研究施設
2021年 3月	東京中小企業投資育成株式会社より新規投資先に選ばれ資本金を6385万円に増資
2022年12月	本社を埼玉県さいたま市岩槻区加倉23-1に移転